

'16

受験  
番号

後期日程

## 社会情報学部小論文問題

### 注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題に落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所等があった場合には申し出てください。
3. 解答は指定の解答用紙に記入してください。
4. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。
5. 問題冊子と下書用紙は持ち帰ってください。
6. 時間は 120 分です。

次の文章を読んで以下の問いに答えなさい。

政治や企業活動と地域社会の違いは、専従のリーダーがいないことである。政治のプロフェッショナル、つまりは職業政治家、ならびに専従の経営者にあたるものが存在しない。すでに述べたように、地方議会の議員がそれにあたるはずであったのだが、町内会や婦人会、商店街の振興会や社会福祉協議会などといった、選挙での集票機能をもった既存の団体とのパイプを使うばかりで、都市部であらたに動きだした<sup>(※)</sup>NPO やボランティアといった新しい市民のネットワークにうまく対応もしくは連携がとれていない大方の地方議員は、残念ながら地域社会の十全な力になっているとはとてもいえない。地方議員のこの無力は、市民に力がついてきたからではなく、逆に、政治のプロ(であるはずのひとたち)への市民の「おまかせ」構造がますます昂<sup>こ</sup>じてきた結果なのである。

社会がいやでも縮小してゆく時代、「廃」炉とか「ダウン」サイジングなどが課題として立ってくるところでは、先頭で道を切り開いてゆくひとよりも、むしろ最後尾でみな<sup>の</sup>安否を確認しつつ進む登山グループの「しんがり」のような存在、退却戦で敵のいちばん近くにおいて、味方の安全を確認してから最後に引き上げるような「しんがり」の判断が、もっとも重要になってくる。じっさい、震災復興にあっても、ひたすら「防災」のためのハード面での公共事業に取り組むのではなく、地域が震災前から抱え込んでいた問題を見据えながら、そこでの日々の暮らしを創造的に再興する取り組みと結びついた経済活性化策を講じなければならないだろうし、またもしそうした社会全体への気遣いや目配りができていれば、建築資材と労賃の高騰を招くことで東北での復興事業を大きく遅延させることが必定な“東京五輪”の誘致など、だれも発想しなかっただろう。こういう全体<sup>の</sup>気遣いこそほんとうのプロフェッショナルが備えていなければならないものなのであり、またよきフォロワーシップの心得というべきものである。そしてこうした心得を、ここで《しんがりの思想》と呼んでみたい。

リーダーがその「しんがり」の務めに戻るべきときがいま来ている。ダウンサイジングという、「右肩上がり」の時代のリーダーたちがいちばん不得手な難問が山積しているという状況が目の前にある。

「経世済民」(political economy)の「エコノミー」という語が、ギリシャ語の「オイコ

ノミア」(家政)からきているように、国家財政というのは家計とよく似ている。そもそもどの経費を削るか、どこを膨らましどこを圧縮するか、何に当座は金を向け、何を後に回すか……。思案のしどころである。国家財政においても家計においても。そしてこれはもっとも頭を使うところでもある。パイは決まっている。一人ひとりの願いを聞き届ければ、家計は破綻する。借金は家訓により御法度だ。だからまず無駄を省くことを考える。けれどもそれにも限界がある。切り捨てを決断しなければならないものがあるのはあきらかだ。けれどもいきなり切り捨てを申し渡して、せっかくのやる気を殺ぐ<sup>そ</sup>のは忍びない。後に回す、あるいは眼をつむって切り捨てるにも、きちんとした理由をあげて、相手を納得させねばならない。そこであげるべき理由は何か、もつべき「未来像」は何か……。

ここにきて、財布を握る主婦ないしは主夫ははたと考え込む。優先順位を決めるにあたっての理屈を考えなければならなくなるのだ。我慢を求めるためには、きちんとした説得の言葉が必要だ。相手に納得させるにはしっかりした「思想」が要る。「思想」という言葉が仰々しければ、「家族生活の基本となる考え方」と言ってもいい。あるいは価値の軽重と先後、つまりは「価値の遠近法」と言ってもいい。そして何かをしきりにねだっていた子どもも、こういうことも考えないといけな<sup>い</sup>のだというふうに、事の複雑さを知るようになる。

かつてひとびとが極度に貧しいときには、理屈は必要なかった。まずはいのちをつなぐこと、生き<sup>ながら</sup>存<sup>え</sup>ること、これが原点であることが明確であった。子どもが何かねだっても、「これがあつたら家族みんなが数日間、食べられますからね」と言われれば、子どもは黙るほかなかつた。あるていどの融通が利くほどに豊かになると、子どもは「あの子は買ってもらったのに、それに較べうちの親は愛情が薄い」というふうに不満を溜め込むようになる。

「限界」を意識するのは、この意味で大事なことである。ここを超えると危険水域に入るという臨界点を知ること。これがいのちをつなぐためにもっとも重要なことだ。「限界」を見させまいとすることは、子どもの心を傷つけないという思いからのことだろうが、いずれ子どもをより大きな危機にさらすことになる。しかし、「限界」はよほど眼をこらさないと見えない。眼をこらすというのは、じぶんがどういう状況にあるかを一步退いて見ること、つまりは惰性を脱する行為だからだ。

日本人は寡栄養に強く、過栄養に弱いと、肝臓疾患の専門医から聞いたことがある。どういうことかという、日本人の身体は体内に採り入れた少ない脂肪を数日間うまく使って飢えを凌ぐのには向いているが、栄養過多に対して脂肪を減らす機能がないということらしい。だからこのところ、肝脂肪が原因で肝臓ガンになるひとがじわりじわり増えているという。そういう意味でも、減らすというのはほんとうにむずかしい。ご馳走があるのに、途中でやめるというのはむずかしい。便利な物をあえて使わないというのもむずかしい。何かある事業を立ち上げるために別の事業をやめるというのもむずかしい。「足るを知る」。言葉はやさしいが、それを実行するのはむずかしい。このことがわたしたちの社会構造についてもいえるとするなら、「足るを知る」という古人の知恵、いいかえるとダウンサイジングというメンタリティに、いまだれよりも近いところにいるのが、というか、そうならざるをえない場所へいちばん先にはじき出されたのが、いまの若い世代なのかもしれない。骨の髄まで「成長」幻想に染められているそれ以前の世代には、過栄養という不自然が不自然には映らないからである。ダウンサイジングというメンタリティにもっとも遠い世代のリーダー像では、縮小してゆく社会には対応できないのだ。

鷺田清一『しんがりの思想：反リーダーシップ論』2015年 角川新書  
(設問の都合上、表記を変えた箇所がある)

(※)NPO …… nonprofit organization の略。非営利の民間組織。

問 1 「しんがりの思想」とは何かを簡潔にまとめなさい。(100 字程度)

問 2 あなたは、これまで学校生活をどのように送ってきたか、「しんがりの思想」の観点から述べなさい。(400 字程度)

問 3 下線部について、解答欄冒頭で賛・否の立場を明らかにし、その理由を記述しなさい。なお、賛・否いずれの立場であっても採点に影響はない。(600 字程度)